



ホームページ <http://www.kochi-ms.ac.jp>
 メールアドレス kms-info@kochi-u.ac.jp
 郵送先 〒783-8505 南国市岡豊町小蓮
 高知大学医学部・病院事務部総務企画課 調査・広報係
 TEL 088-880-2723 (直通)

うちの病院ここがすごい **Page 56**

ホルモン感受性ハーツ—陰性乳癌の術後での TS-1の再発抑制効果を確認する 臨床試験(POTNET試験)への参加について

外科(一) 副科長 杉本 健樹

日 本の乳癌は増加を続け、2007年には6万人を超える女性が罹患したと推定されています。今や、女性16人に1人が乳癌になる時代です。一方、乳癌は女性ホルモンを抑えるホルモン療法、HER2(ハーツ—)というタンパクに対する抗体治療(ハーセプチン)、抗がん剤など様々な薬が有効で、これらの薬剤を適正に使用することで術後の再発や死亡を減らすことができます。そのため、女性で最も多いがんでありながら、臓器別の死亡数は5位と他のがんに比べると治癒するひとの割合が多いがんです。しかし、再発すると治癒は困難で、そのために命を落とす女性が年間1万2千人を超えていることも事実です。この乳癌の再発を少しでも減らすためにはさらなる薬物療法の開発が必要です。

乳 癌の薬物療法は、がんのタイプによって大きく異なります。基本的に、女性ホルモン受容体(ER)陽性乳癌にはホルモン療法、HER2陽性乳癌にはハーセプチン+抗がん剤、いずれも陰性の場合は抗がん剤が中心となります。特にER陽性HER2陰性乳癌はホルモン療法が有効で再発が少ないとされていますが、長期に経過を追うと再発は必ずしも少なくありません。このため、ホルモン療法に上乗せして有効な抗がん剤治療が必要です。しかし、このタイプには術後に標準的に使用されているアンストラサイクリンとタキサンという強い抗がん剤があまり有効でないことがわかってきました。

一 方、以前に日本で行われた複数の臨床研究の解析で、ER陽性乳癌では5-フルオロウラシル(5-FU)から作られたUFTという抗がん剤に再発抑制が期待できることが示唆されていました。現在、UFTを進化させたTS-1という薬剤が転移・再発した乳癌に保険適応となっていて、胃癌術後は標準治療として使用されていますが、乳癌術後には保険適応がなく一般に使用されることはありません。

T S-1がER陽性HER2陰性乳癌術後に有効か否かを検証する臨床研究が、京都大学を中心にパブリックヘルスリサーチセンター(CSPOR)という数々の臨床研究を手掛けてきたグループにより開始されました。しかし、TS-1は乳癌術後の保険適応がないため、研究に参加する施設では先進医療の形で投与できるようにすることとなっています。当院も乳癌術後にTS-1を使用できるように先進医療を取得しました。これはこの臨床研究に参加してTS-1を服用するグループに振り分けられたER陽性HER2陰性乳癌に対してだけ使用できるものです。決して乳癌術後なら誰にでもというものではありません。TS-1が乳癌術後に再発抑制効果がある可能性は示唆されるものの、その効果は未だ確定していないためです。

こ の研究の成果は将来このタイプの乳癌になった女性の福音となる可能性がありますし、試験に参加いただける患者さんには標準的な医療にTS-1を上乗せして受けるチャンスが提供できることとなります。臨床研究、特に無作為化割付試験というと現場の医療者や患者さん自身が治療法を選択できないため、実験的医療と捉えられがちですが、患者さんにも新しい治療を受けられる治療オプションのひとつであり、なにより将来、同じ病気で苦しむひとを救うことになる可能性のある研究であることをご理解いただくようお願いいたします。また、免疫染色という病理学的手法で診断されるER・HER2を当院の病理診断部で行うと同時に研究グループの中央病理で再検することで、より正確な診断を得ることができ、当院の免疫染色の精度を再確認するよい機会になると考えています。

病 院として臨床研究に参加することで医療がレベルアップして現在の患者さんに様々なオプションを提示できる環境を得られると同時に、医療者として将来の患者さんを救う研究を支えていくモチベーションを持ち続けることは大変重要なことと考えています。



講義の様子



手洗い体験



縫合糸を用いた結紮体験



内視鏡外科手術トレーニング装置操作体験



第6回

手術体験セミナーを行いました

総務企画課

附属病院では、2月23日・24日の二日間、地域社会貢献活動の一環として「手術体験セミナー」を開催しました。地域の中学生・高校生を対象としたこのセミナーは、医療の現場や医師の仕事を体験することにより、一人でも多くの子ども達に医師や医療に対する興味を抱いてもらえればと企画したもので、平成18年度よりほぼ毎年開催しています。6回目となる今回は二日間合わせて計56名(男子18名、女子38名)の中・高生が参加しました。

はじめに花崎和弘教授(外科学)より開会の挨拶があり、つづいて渡橋和政教授(外科学)より「附属病院の紹介と外科系医師の仕事紹介」、小林道也教授(医療管理学)より「内視鏡手術とは」の講義が行われました。その後、参加者は手術室へ移動し、実際の手術着に着替えてプログラムを体験しました。

プログラムは、最新鋭の手術支援ロボット「ダヴィンチ」操作、内視鏡外科手術シミュレーターによる手術手技操作、人体モデルを用いた気管内挿管等6つのブースに分けられ、参加者は約3時間かけて外科、麻酔科、産科婦人科、整形外科、泌尿器科

の医師15名に指導を受けました。手術支援ロボット「ダヴィンチ」のブースでは、一人ずつ順番にロボットを操作し、アームで1センチ弱ほどの小さな輪を凸部分にかける作業が成功すると、3Dモニターやアームの先端部分を見ていた他の参加者からは歓声が上がっていました。

閉会式では、花崎教授と小林教授から参加者に受講証明書が手渡され、笑顔で証明書を受け取った参加者からは「普段はできない体験ばかりでとても貴重な経験になった」、「今回のセミナーに参加して、医者になりたいという気持ちが更に強くなった」などの感想が寄せられました。



手術支援ロボット「ダヴィンチ」操作体験



内視鏡外科手術シミュレーター「Lap Mentor」操作体験



超音波凝固切開装置「ハーモニック スカルペル」操作体験



人体モデルを用いた気管内挿管体験



受講証明書授与の様子
(写真右から花崎和弘教授[外科学]、小林道也教授[医学管理学])



「タリーズコーヒー 高知大学病院店」オープン!



屋内23席、テラス8席

3月25日、外来診療棟1階中央に「タリーズコーヒー 高知大学病院店」がオープンしました。同店は患者さんやご家族、また職員のアメニティ向上を目的として設置されたもので、タリーズコーヒー県内初店舗です。室内23席、テラス8席の計31席が用意されており、庭を眺めながらくつろげる空間となっています。



フードメニューも豊富です



杉浦病院長とタリーズの皆さん

経営状況説明会を行いました

附属病院では、3月11日、「平成24年度病院経営状況説明会」を開催しました。

説明会は橋本医学部長の挨拶からはじまり、沖会計課長より病院の経営状況、これまでの取組(処遇改善や医療機器の購入状況)、病院再開発の計画と資金計画、平成24年度補正予算による整備の4項目について説明があった後、杉浦病院長より今後取り組む項目についての説明と職員への協力依頼で締めくくられました。

会場には医師や看護師をはじめ約300名の職員が参加し、「現在の経営状況と病院再開発について知ることが出来て良かった」や「病院長から話が聞けて、これから取り組むべき項目が理解できた」等の感想が寄せられました。



説明を行う杉浦病院長(写真中央)

院内エレベーターをリニューアルしています



現在、院内のエレベーターを患者さんに快適に使っていただけるよう、順次リニューアルしています。



高知大学医学部/西門からの桜並木

